

校正と校閲



昨年 of 年末にわたしの戯曲を継続的に出版してくれている論創社のM社長と編集部の人たちと「I note ② 舞台演出家の記録」の出版記念パーティーを兼ねた慰労会を神保町で行った。神保町へ足を運ぶのは久しぶりである。JR線のお茶の水駅から緩やかな坂を下り神保町へ。古本屋が軒を連ねる神保町の界限は昔とさほど変わらぬが、季節のせい、電飾が輝き、ちょっと垢抜けた印象を持った。

M社長に「校正と校閲の違い」についての話を聞く。わたしはすでに論創社から22冊も本を出版しているので、「校正」がどういう作業なのかは理解している。「校正」とは、著者や編集者が校正と校閲校正と校閲。ゲラ刷り」と呼ばれる製本される前の原稿をチェックして、印刷の際の誤りを直すことである。この段階で、「赤入れ」と呼ばれる赤いペンによる修正が行われる。しかし、「校閲」の方は余り聞き慣れない言葉である。「校閲」とは、「校正」と同じように誤り直す作業ではあるが、記述内容自体に誤りがないかどうかをチェックする作業である。つまり、「校正」は著者や編集者が行うが、「校閲」は、より専門的な校閲者が行う作業であるということである。

何年か前に「地味にスゴイ！校閲ガール・河野悦子」というテレビドラマ（原作は漫画）があったが、そのドラマの主人公は「校閲」を専門とする本の編集者である。言ってみれば、「校閲者」とは、飛行機の離陸における最後の整備士に当たるようなものか。その飛行機が絶対に安全に飛行することができるとかどうかを判断し、万が一、不具合があった場合、それをすみやかに修理して、安全な飛行を確保する人。つまり、彼らは本の最終整備士なのだ、きつと。

高橋いさを

〈劇作・演出家〉